

# 地域医療連携だより

Vol.196  
R1.9

長浜赤十字病院 地域医療連携課  
〒526-8585 滋賀県長浜市宮前町14-7  
TEL 0749-68-3314  
FAX 0749-68-3315



地域医療支援病院・救命救急センター  
地域周産期母子医療センター  
地域災害医療センター  
滋賀県地域がん診療連携支援病院  
基幹原子力災害拠点病院



初秋の候、貴院におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素より当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

## 形成外科のご紹介



形成外科部長  
河合 勝也

### 形成外科って何ですか？

形成外科の定義は、「身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、みなさまの生活の質“Quality of Life”の向上に貢献する、外科系の専門領域」と小難しいですが、要は体の表面から軟部組織、顔面は骨まで、全身に及ぶ様々な疾患を診ています。

具体的には以下の項目の診療を行っています。

- ①新鮮熱傷
- ②顔面外傷（顔面軟部組織損傷・顔面骨骨折）
- ③唇裂・口蓋裂（先天性鼻咽腔閉鎖機能不全症を含む）
- ④四肢の先天異常・外傷（多合指症、先天性絞扼輪、切断指など）
- ⑤その他の先天異常（小耳症、先天性耳瘻孔、臍ヘルニアなど）
- ⑥良性皮膚腫瘍・軟部腫瘍（母斑、血管腫、粉瘤など）
- ⑦悪性腫瘍およびその再建（皮膚癌、ページェット病、義眼床、乳癌術後変形・頭頸部腫瘍切除後の再建など）
- ⑧瘢痕・ケロイド
- ⑨潰瘍・褥瘡
- ⑩その他（顔面神経麻痺、眼瞼下垂、陥入爪、下肢静脈瘤など）

形成外科医の数が少ない滋賀県にあって、当院では3名の形成外科専門医を配し、それぞれ次の専門分野を中心に治療を行っています。顔面先天異常を持つお子様に対して、外観上醜形を改善するだけでなく機能的回復を目的とする専門性の高い分野を担っています。当院は救命救急病院という特性上、手足や顔面の外傷も多く、緊急手術はもちろん、外傷後の機能再建を含めた外科治療も専門としています。また、高齢化社会に伴い増加している眼瞼下垂の手術や、褥瘡・難治性潰瘍に対しては在宅や訪問看護を含めた地域医療の中心として、フットケアや生活指導を含め治療を行っています。下肢静脈瘤の血管内治療、各種あざ・ほくろに対して3種類のレーザーを用いた治療など当院特有の治療も行っています。疾患の治療だけでなく、何か気になることがあれば遠慮なくご相談頂ければ幸いに存じます。

### 第13回地域医療意見交換会 開催のお知らせ

今年も下記の日程で意見交換会を予定しております。湖北・湖東の先生方には、別途ご案内をさせていただきます。ご出席いただきますようお願いいたします。

日時：10月12日(土) 16時～20時

場所：北びわこホテルグラツィエ

第1部：講演会 16時10分～

※日本医師会生涯教育単位 1.5単位 CC：12・地域医療

「地域連携に役立つ脳神経内科の知識」（仮題）

滋賀医科大学 脳神経内科 学内講師 金一暁 先生

第2部：意見交換会(懇親会) 18時～



## ◆◆ 新任医師よりご挨拶 ◆◆



よろしくお願いします。



消化器内科（副部長） 大崎 理英

長浜赤十字病院は約10年前に、後期研修医として勤務しておりました。この8月より再びお世話になっております。諸先生方をはじめ、病院スタッフの方々も見おぼえてくださった方が声をかけてくださり、大変ありがたく思っております。当院での後期研修終了後は、縁があって肝臓疾患を中心に診療しておりました。今後は肝疾患はもとより、幅広く消化器領域を診療できるよう研鑽してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



耳鼻いんこう科（副部長） 菊岡 弘高

平成21年に滋賀医科大学を卒業し、平成24年からおよそ3年間長浜赤十字病院にて耳鼻いんこう科医師として働かせて頂きました。その際には地域の先生方には色々とお世話になり、ありがとうございました。滋賀医科大学に戻ってからは、アレルギーや嗅覚、副鼻腔手術など、主に鼻関連の治療を担当しておりました。この度長浜赤十字病院に戻ってくることができて、大変光栄に思っております。これからは湖北地域の耳鼻いんこう科治療に少しでも貢献したいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

## ◆◆ 活動報告 ◆◆

### ★ 湖北呼吸器疾患研修会（7月11日開催）

滋賀医科大学 内科学講座（呼吸器内科）中野 恭幸教授に「喘息・COPD治療のポイント」についてご講演いただきました。当院には現在呼吸器科外来はありませんが、救命救急センターには呼吸器疾患の疑われる患者さんや当院かかりつけで呼吸器疾患にかかられた患者さんなど、様々な方がご来院されます。今後も専門だけでなく様々な疾病に対応できるよう、研鑽を重ねてまいります。



### ★ 医師体験ワークショップ（7月28日開催）

湖北医師会主催、市立長浜病院・長浜赤十字病院共催で、中高生を対象に市立長浜病院にて医師体験ワークショップが開催されました。

この催しは、湖北地域の医療人材不足解消のため、地元を中心とする中学・高校生に医療（特に医師）に関心を持ってもらうために開催しており、今年で7回目となりました。毎年多数の応募があり、今年は抽選で選ばれた中学3年生から高校2年生までの23人が参加しました。共催病院の医師・看護師・事務はもとより、米原市・長浜市の職員さんらにもサポートいただきました。

参加者は、切開や縫合・腹腔鏡手術・内視鏡手術・問診体験・先生とのトークブースをそれぞれ体験し、具体的なイメージを膨らませたり、医師としてのやりがいや受験勉強のコツを聞いたりしてモチベーションを高めたようです。

この体験が、10年後に医師として働いていただくきっかけになれば嬉しいことです。



<術衣装着！>



<内視鏡手術体験>



切開・縫合体験

腹腔鏡手術体験





## 北びわこ大花火大会救護活動報告（8月5日実施）

看護師 廣部 孝子

本年度、赤十字救護班として4班に配属され、北びわ湖大花火大会にて救護活動に参加しました。当日は連日の猛暑から、熱中症の傷病者が多いのではと考えていました。しかし、夕方には日差しも落ち着き、本部の方も水分補給を繰り返しアナウンスしてくださったため、熱中症を疑う傷病者の救護所への搬送はありませんでした。その他には、靴ずれや転倒による外傷を負った傷病者が救護所に来られましたが、幸いにも大事に至らず、引き続き花火を楽しめたとの声を聞くことも出来ました。皆様が心待ちにされた花火を安心して安全に楽しんで頂くために、救護員として事前の状況把握と、予測される傷病者に対しての準備を行う必要があると感じました。医療用具はもちろん、安楽を確保するための物品やプライバシーの保護にも留意し、皆様の心に寄り添った救護が出来ることを心がけていきたいです。



## 第28回湖北緩和ケア・在宅医療研究会

（8月8日開催）

がん診療支援室 富永 治美

長浜赤十字病院にて医師、看護師、薬剤師など32名の多職種の方々にご参加いただき、長浜赤十字訪問看護ステーション 垣見 留美子所長より「看とりに向けた在宅ケアチーム間の連携」について、長浜赤十字病院 外科 中村 一郎部長より「チーム医療～長浜赤十字病院緩和ケアチームの場合」についてご講演をいただきました。またディスカッションの部では、病院内のチーム医療と在宅でのチーム医療について、歯科・歯科衛生士の役割と活用について意見が交わされました。今後も湖北地域の緩和ケア・在宅ケアについて、いろいろな立場の多職種の方々と考える場に参加したいと思います。



## 第6回湖北地域小児リハビリテーション研修会

（7月27日開催）

長浜赤十字病院 作業療法士 伊藤 恵氏より「発達障害」について、滋賀県立甲良養護学校 教諭・作業療法士 生駒 智昭先生より「特別支援学校での取り組み・連携」についてご講演いただきました。

発達障害については、発達障害とはどんなものか、どんな支援が必要か、作業療法の実際について具体的にお話をいただきました。また特別支援教育と連携については、特別支援学校での自立を目指した教育、多岐にわたる関係機関との連携の現状についてご紹介いただきました。参加者の皆様からは

- ・感覚面の様々な因子や課題、対応についてヒントになりそうなことも多く、参考になりました。
  - ・褒めることの大切さを学びました。
  - ・現場の関わり方、対応の仕方がイメージしやすい内容だった。
- 等の感想をいただきました。

今後も多数のご参加をお待ちしております。



## 第5回湖北地域小児リハビリテーション研修会

（7月24日開催）

長浜赤十字病院 理学療法士 橋村 尚樹氏より「重症心身障害児（者）」についてご講演いただき、理学療法士、作業療法士の皆様をはじめ、医師、看護師、保育士など多職種の方にご参加いただきました。

講義では、重症心身障害児（者）の健康上の問題や必要な医療ケアについて、とくに呼吸の問題についてケアやポディショニング、姿勢保持用具等のご紹介をいただきました。参加者の皆様からは

- ・重症児にとって呼吸管理がとても大切だということがよく分かった。アプローチの方法が聞けて良かった。
  - ・福祉用具の具体例が良かった。
  - ・ポディショニングで困ることが多く参考にしたい。
  - ・看護にも生かせるような知識を得られて良かった。
- 等の感想をいただきました。



↑ 教諭・作業療法士  
生駒 智昭 氏



↓ 作業療法士  
伊藤 恵 氏



## 🍁 BHELP (ビーヘルプ) 研修 (8月18日開催)

社会課 富岡 康弘

日本災害医学会が主催するBHELPがここ長浜赤十字病院で金澤社会課長をコースコーディネーターとして滋賀県で初開催されました。参加者の職種も様々で医師(保健所長も)、看護師、保健師、行政職員、救命救急士、社会福祉士、介護士など、滋賀県下はもとより他府県からも48名の方々がご参加くださいました。

この研修は保健所や市役所、老人保健施設など地域保健・福祉関連業務に従事するものを対象として、発災直後から避難所での活動を効果的・効率的に実践するために、災害対応における知識、共通の言語と原則を理解し、被災者の生命と健康の維持、発災直後からの被災地内での災害対応能力向上を目的とした災害対応標準化トレーニングとなります。日本語では「地域保健・福祉における災害対応標準化トレーニングコース」、英語では「Basic Health Emergency Life Support for Public」BHELP(ビーヘルプ)といいます。被災した住民の生命を守るための行動がわかり、避難所での生活の質を向上させることが大きな目的となります。

阪神淡路大震災で31万人、東日本大震災では47万人もの人が避難所生活を送りました。その避難所生活では様々な問題が起こり、感染症やトイレや手洗いなど衛生環境の問題や、慢性疾患や医療処置が必要、そして認知症や寝たきりなど介護が必要な避難者に支援が行き届かないなどの問題が起こりました。そこでこの研修では、要配慮者(乳幼児、妊産婦、要介護者、障害者など)がいないかを判断し、救護の手を差し伸べ、次の福祉避難所や医療施設などにつないでいくことを学びました。

そして、避難所での生活環境は悪いのは仕方が無い、当たり前である!のではなく、いかに良好な避難所生活が送れるかなど運営のポイントを学び、様々な機関が連携し備えておくことが大切であることを気づかされる研修となりました。後日、早速行政機関からも次を開催して欲しいとのご要望を受けるなどの反響をいただいています。今後もこの研修を継続して開催出来るように努め、少しでも避難者の生活の質が向上出来、地域の災害に強く、避難者に優しい地域作りに貢献出来るよう頑張らさせていただきます。



## ◆◆ 研修会等開催のご案内 ◆◆

### 🍎 第4回がん支援研修会・地域医療連携研修会(合同)

※日本医師会生涯教育単位 0.5単位 CC:21

日時: 9月12日(木) 18時~19時45分

場所: 2号館5階 大会議室

内容: 第一部 講演会「その人らしさを尊重するアドバンス・ケア・プランニング(ACP)」  
講師 佐久総合病院 診療部長・地域ケア科医長・内科医長・国際保健医療科医長  
北澤 彰浩 先生

第二部 グループワーク「ACPについて考えよう。」

対象: がん患者さんに関わる医療・介護職の方



### 🍎 第8回湖北地域小児リハビリテーション研修会

日時: 9月28日(土) 13時30分~15時30分

場所: 2号館2階 理学療法室

テーマ: 座位保持装置などの福祉用具について

講師: 株式会社 松永製作所

寺倉 宏行 氏

テクノグリーン販売株式会社

佐藤 尚樹 氏

対象: リハビリテーション専門職および

関心のある医療職の方

※各回のみのお参加もお待ちしております。

### 🍎 第9回湖北地域小児リハビリテーション研修会

日時: 10月9日(水) 18時~19時

場所: 2号館5階 大会議室

テーマ: 訪問看護との連携について

講師: 米原市地域包括医療福祉センター

ふくしあ 訪問看護認定看護師

小倉 敦子 氏

対象: リハビリテーション専門職および

関心のある医療職の方

※各回のみのお参加もお待ちしております。